

新館建設後の国立公文書館（3館）の体制

新館

歴史公文書等の保存・利用等の取組推進拠点
 基幹的業務を担い、3館の連携の中心的な役割
 多くの国民が利用する展示・閲覧を中心とした総合的施設

主な機能	主な諸室	面積（目安）
展示・学習	展示室、体験支援室 等	約2,400m ²
	現状：420m ² （北の丸）→約6倍	
調査研究 支援	閲覧室、参考資料室 等	約1,500m ²
	現状：340m ² （北の丸）→約4倍	
保存	書庫、修復作業室 等	約10,000m ²
	現状：14,940m ² （北の丸・つくば）→3館合計で約2倍	
デジタル化	複製物作成室 等	約600m ²
現状：専用スペースなし→新設		
交流	エントランス、来館者用スペース 等	約700m ²
	現状：専用スペースなし→新設	

他に執務室・廊下等の諸室を備える。

北の丸

国内外の行政官等向け研修等を実施する学習拠点
 と研究者向け書庫

※ 経年による老朽化への対応策を必要に応じ検討。諸機能を適切に果たせるよう、施設の在り方について長期的な観点から検討。

つくば

受入れ機能を集約するなど保存機能（書庫等）に特化

工事期間中の憲政記念館仮施設

場所：千代田区永田町1丁目8-1等
 （国会参観バス駐車場北側）

使用期間：遅くとも2021年度から工事に着手、
 新たな施設完成時まで使用

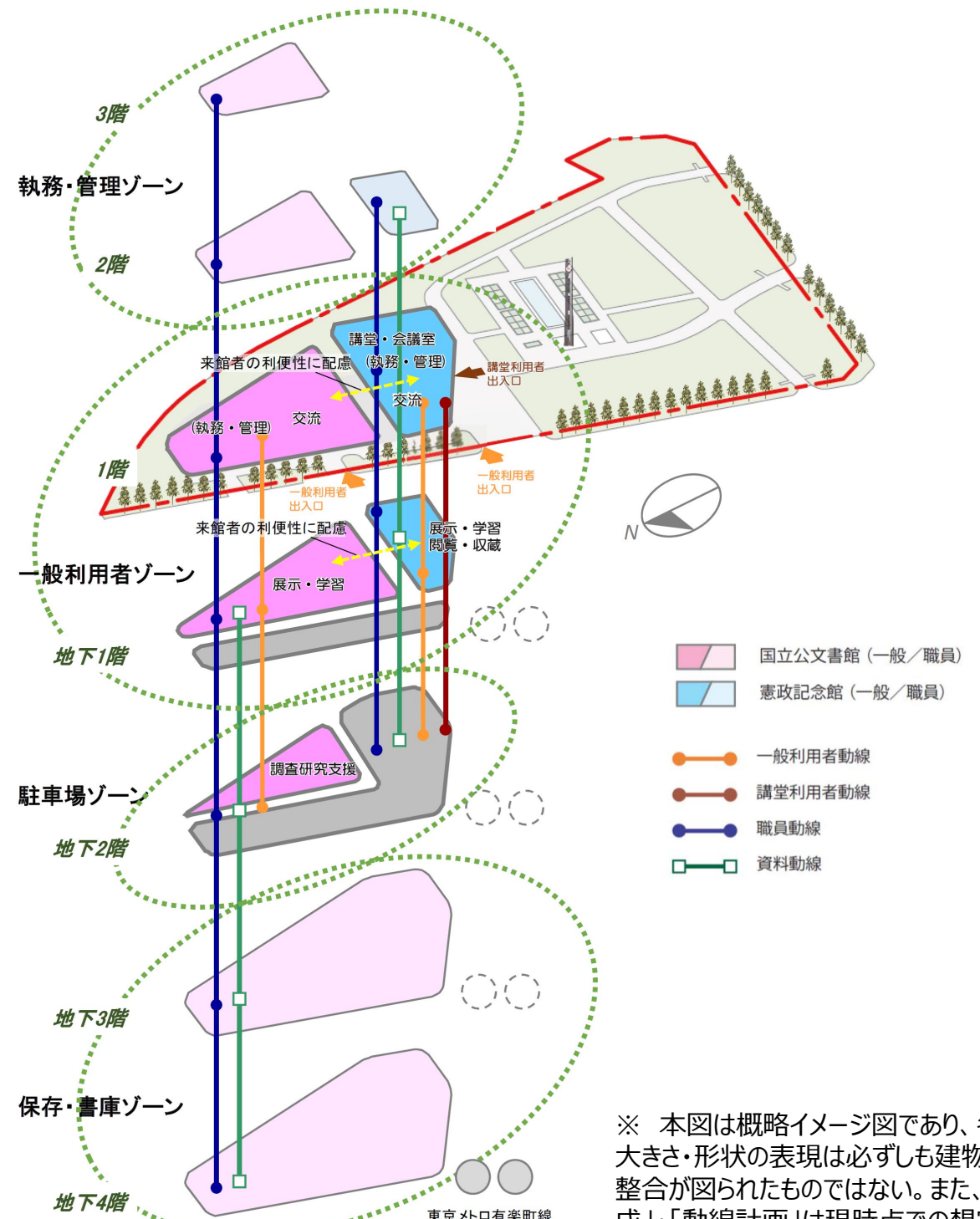
主要諸室：会議室、展示室、収蔵庫、事務室

今後の進め方（予定）

2018年度～ 基本設計→実施設計
 2021年度～ 建設工事
 2026年度 施設完成・開館

階層構成・動線計画のイメージ

【一般利用者の移動距離をコンパクトにしたパターン】



※ 本図は概略イメージ図であり、各ゾーンの大きさ・形状の表現は必ずしも建物面積等と整合が図られたものではない。また、「階層構成」・「動線計画」は現時点での想定であり、今後設計の進捗に応じて詳細を検討する。